

引用文献及び参考文献

【日本語の文献】

- 【1】 秋永一枝 (1968) 「いわゆる特殊音節 (特殊拍) について」『講座日本語教育』4 早稲田大学語学教育研究所 pp. 36-51
- 【2】 有坂秀世 (1992[1940]) 『音韻論』三省堂
- 【3】 岩見田均・小林敦人・奈良泰弘 (1986) 「無声破裂子音識別に関する検討」『日本音響学会講演論文集』2-1-2 pp. 53-54
- 【4】 石井カルロス寿憲・広瀬啓吉・峰松信明 (2000) 「等時性の観点からの日本語モーラタイミングに関する考察」『日本音響学会講演論文集』2-4-14 pp. 71-72
- 【5】 石川泰 (1997) 「2 モーラを単位とする音韻継続時間長制御規則の評価」『日本音響学会講演論文集』2-2-15 pp. 253-254
- 【6】 石川泰 (1998) 「規則合成のための 2 モーラを単位とする音韻継続時間長規則一単位内時間構造の特徴」『信学技報』電子情報通信学会 SP-97-93 pp. 41-48
- 【7】 上野善道 (1984) 「地方アクセントの研究のために」『国文学解釈と鑑賞』昭和 59 年 5 月特別増刊号 pp. 47-64
- 【8】 上野善道 (2001) 「日本語のモーラ、ラテン語のモーラ、英語のモーラ」『国語研究』第六十四号 國學院大學国語研究会 pp. 8-16
- 【9】 内田照久 (1998) 「日本語特殊拍の認知に関連した定常的音声区間の持続時間に対するカテゴリー的知覚」『日本音響学会講演論文集』1-8-10 pp. 379-380
- 【10】 大竹孝司 (1990) 「日本語音声のセグメンテーション・ユニット」電子通信学会技術報告 SP.90-108 pp. 41-46
- 【11】 大坪一夫 (1980) 「日本人の長母音、短母音の判別能力について」『言語文化論集』II-1 名古屋大学総合言語センター 名古屋大学総合言語センター pp. 61-68
- 【12】 大坪一夫 (1981) 「日本人の促音の有無の判別能力について」『言語文化論集』III-1 名古屋大学総合言語センター pp. 39-47

- 【13】 大野澄雄・藤崎博也 (1995) 「調音速度の変動の定量的分析のための一手法」『日本音響学会講演論文集』 1-4-8 pp. 233-234
- 【14】 大野澄雄・藤崎博也・田中秀行 (1997) 「文脈が局所発話速度に与える影響の分析」『日本音響学会講演論文集』 2-2-12 pp. 247-248
- 【15】 大野澄雄・藤崎博也・高橋浩生 (1998) 「韻律構造を考慮した対話音声の発話速度分析と規則化」『日本音響学会講演論文集』 1-2-14 pp. 201-202
- 【16】 大深悦子 (2003a) 「促音知覚に対する文脈発話速度の影響」『平成 15 年度日本音声学学会全国大会研究発表論文集』 pp. 87-92
- 【17】 大深悦子 (2003b) 「促音 /tt/ の知覚：アクセント型と促音・非促音語の音響的特徴による違い」『音声研究』 第 7 巻 1 号 日本音声学会 pp. 70-76
- 【18】 海木延佳・武田一哉・匂坂芳典 (1992) 「言語情報を利用した母音継続時間長の制御」『電子情報通信学会論文誌』 J75-A No.3 pp. 467-473
- 【19】 笥一彦・広瀬友紀・加藤一美 (1995) 「音声の分節単位と音韻知覚」『日本音響学会講演論文集』 1-7-3 pp. 389-390
- 【20】 笥一彦・広瀬友紀 (1997) 「対照研究を利用したモーラ数知覚の検討」『音声研究』 第 1 巻第 3 号 日本音声学会 pp. 23-28
- 【21】 鹿島央 (1989) 「日本語の等時性について」『名古屋大学言語文化論集』 11-1 名古屋大学総合言語センター pp. 267-276
- 【22】 鹿島央 (1992) 「日本語のリズム単位とその型について-日本語教育への応用をめざして-」カッケンブッシュ寛子・尾崎明人他編 (1992) 『日本語研究と日本語教育』名古屋大学出版会 pp. 305-319
- 【23】 粕谷英樹・加藤正樹 (2000) 「特殊モ-ラの音響的ならびに知覚的特性」『第 14 回日本音声学会全国大会予稿集』 pp. 109-114
- 【24】 加藤宏明・津崎実・匂坂芳典 (1993) 「単語内音韻長変動に対する許容度」『信学技報』 電子情報通信学会 pp. 65-71
- 【25】 加藤宏明・津崎実 (1994) 「知覚的音韻長補償効果の測定」『日本音響学会講演論文集』 2-5-20 pp. 315-316
- 【26】 加藤宏明・津崎実・匂坂芳典 (1997) 「音声の時間知覚における母音開始点と母音

- 終了点との機能差：話速の評定」『日本音響学会講演論文集』1-3-3 pp. 367-368
- 【27】 加藤正樹・梶谷晴彦・粕谷英樹（1998）「音声の生成過程を考慮した音節・モーラ時間長に関する検討」『日本音響学会講演論文集』1-7-14 pp. 207-208
- 【28】 加藤雅代・古村光夫（1994）「母音部エネルギー中心点に着目した日本語リズム規則の適用例外の規則化」『日本音響学会講演論文集』1-4-12 pp. 213-214
- 【29】 亀井孝（1956）「音韻の概念は日本語に有用なりや」『国文学攷』15号（『日本語学のために』（1971）吉川弘文館 pp. 161-177 に再録）
- 【30】 亀井孝・河野一郎・千野栄一（編）（1991）『言語学大辞典述語編』第6巻 三省堂
- 【31】 川崎春子（1983）「音声の時間制御に関するモデルと実測データ-日本語と英語における Isochrony について-」『日本音響学会誌』39巻6号 pp. 389-397
- 【32】 川上泰（1993[1977]）『日本語音声概説』桜楓社
- 【33】 Campbell, N.（1999）「韻律解釈における基本単位」音声文法研究会（編）『文法と音声Ⅱ』くろしお出版 pp. 73-91
- 【34】 金田一春彦（1967）『日本語音韻の研究』東京堂
- 【35】 金田一春彦（1998[1988]）『日本語（上）』岩波新書 pp. 87-132
- 【36】 窪藪晴夫（1994）「日本語の音節量について」『国語学』178集 pp. 7-17
- 【37】 窪藪晴夫（1998）『音声学と音韻論』くろしお出版
- 【38】 窪藪晴夫・太田 聡（1998）「音韻構造の普遍性と個別性」窪藪晴夫・太田 聡『音韻構造とアクセント』研究社出版
- 【39】 窪藪晴夫（2001[1999]）『日本語の音声』岩波書店
- 【40】 窪藪晴夫・本間猛（2002）『音節とモーラ』研究社
- 【41】 黒田成幸（1966）「促音及び撥音について」『言語研究』50号日本言語学会 pp. 85-99
- 【42】 河野守夫（1998）「モーラ、音節、リズムの心理言語学的考察」『音声研究』2（1） pp. 16-24
- 【43】 崔絢喆（2003）『日本語の韻律構造』風間書房
- 【44】 坂井康子（1998）「日本の歌における促音の音響的特徴」『音声研究』第2巻第1号 日本音声学会 pp. 63-71

- 【45】 匂坂芳典・東倉洋一（1981）「音韻固有の性質を考慮した音韻継続時間長設定」日本音響学会音声研究会資料 S80-72 No.7 pp. 561-568
- 【46】 匂坂芳典・東倉洋一（1984）「規則による音声合成のための音韻時間長制御」電子通信学会誌 J 67-A No.7 pp. 629-636
- 【47】 匂坂芳典（1999）「日本語の音韻の時間長制御と知覚」『言語』28-9 大修館書店 pp. 51-56
- 【48】 佐々木淳一・広重真人・宮永喜一・柄内香次（1997）「無声化音中の音韻変化を考慮した局所的話速変化検出に関する基礎的検討」『日本音響学会講演論文集』2-2-13 pp. 249-250
- 【49】 佐藤大和・竹内晟吉（1978）「音声合成のための音韻継続時間の規則について」『日本音響学会講演論文集』3-5-7 pp. 403-404
- 【50】 佐藤大和（1987）『規則による音声合成の規則』博士論文 北海道大学
- 【51】 佐藤ゆみ子（1995）「日本語のモーラリズムー音節数と時間長の間の相関関係」『音声学会会報』209 pp. 40-53
- 【52】 佐藤友則（1994）「高さ・長さ・強さが日本語音声の評価に与える影響力について」『平成6年度日本語教育春季大会予稿集』 pp. 61-66
- 【53】 清水克正（1999）「日英語における閉鎖子音の有声性・無声性の音声的特徴」『音声研究』第3巻2号 日本音声学会 pp. 4-10
- 【54】 高田正治（1985）「促音の調音上の特徴について」『国立国語研究所報告 83 研究報告集』6 pp. 17-40
- 【55】 神保格（1927）「国語の音声上の特質」『日本の言語学 第2巻音韻』柴田武他2人編 大修館書店 pp. 5-15
- 【56】 新村秀一（2004）『JMP活用 統計学とっておき勉強法』講談社
- 【57】 杉藤美代子（1989）「音節か拍か-長音・撥音・促音-」杉藤美代子（編）『講座日本語と日本語教育2 日本語の音声・音韻（上）』明治書院 pp. 154-177
- 【58】 時枝誠記（1973[1941]）『国語学原論』岩波書店
- 【59】 戸田貴子（1998a）「日本語学習者による促音・長音・撥音の知覚範疇化」『文藝言語研究 言語篇』33（筑波大学文芸・言語学系） pp. 65-82

- 【60】 戸田貴子 (1998b) 「モーラと中間言語の音節構造」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』13 pp. 23-45
- 【61】 西端千香子 (1993) 「閉鎖持続時間を変数とした日本語促音の知覚の研究—日本語母語話者と中国語母語話者との比較—」『日本語教育』日本語教育学会 81 号 pp. 128-140
- 【62】 橋本進吉 (1970[1946]) 『国語学概論』岩波書店
- 【63】 服部四郎 (1960) 『言語学の方法』岩波書店
- 【64】 服部四郎 (1979) 『音韻論と正書法』大修館書店
- 【65】 服部四郎 (1984[1951]) 『音声学』岩波書店
- 【66】 花田英輔 (1994) 「独立発声 2 音節単語の知覚における後続発声の影響」『日本音響学会講演論文集』1-9-11 pp. 427-428
- 【67】 馬場良二 (1996) 「日本語長母音における拍数の聞き取りについて—日本語話者と韓国語話者と英語話者の比較」第 16 回東京音声言語研究会資料
- 【68】 比企静雄・金森吉成・大泉充郎 (1967a) 「連続音声中の音韻区分の持続時間の性質」『電気通信学会雑誌』第 50 巻 5 号 pp. 849-856
- 【69】 比企静雄・金森吉成・大泉充郎 (1967b) 「連続音声中の各種区分の持続時間の性質」『電気通信学会雑誌』第 50 巻 8 号 pp. 1465-1470
- 【70】 樋口宜男・藤崎博也 (1981) 「VCV 型 2 拍単語における音素持続時間の制御について」『日本音響学会音声研究会資料』S81-23 pp. 177-184
- 【71】 平田由香里 (1990a) 「単語レベル・文レベルにおける日本人の促音の聞き取り」『音声学会会報』194 号 pp. 23-28
- 【72】 平田由香里 (1990b) 「単語レベル・文レベルにおける促音の聞き取り—英語を母語とする日本語学習者の場合—」『音声学会会報』195 号 pp. 4-10
- 【73】 平藤暢夫・渡部真一郎 (1987) 「促音の知覚と後続母音の持続時間との関係」『音声言語Ⅱ』 pp. 99-106
- 【74】 福居誠二 (1978) 「日本語の閉鎖音の延長と短縮による促音と非促音としての聴取」『日本音声学会会報』159 pp. 9-12
- 【75】 藤崎博也・杉藤美代子 (1977) 「音声の物理的性質」『岩波講座日本語 5 音韻』

pp. 63–106

- 【76】 前川喜久雄（1998）「音声学と音韻論」田窪行則他 5 人『音声』岩波書店 pp. 1–52
- 【77】 政川俊康・石川泰（1994）「2 音節を単位とする音韻長制御規則の検討」『日本音響学会講演論文集』1-P-33 pp. 403–404
- 【78】 益子幸江（1990）「日本語学習者における日本語のモーラ音素の識別能力」『平成 2 年度日本音声学全国大会研究発表論文集』 pp. 122–129
- 【79】 町田章一（1988）「日本語の基本的なリズムの設定方法とリズムパターン」*Sophia Linguistica* 25 pp. 35–43
- 【80】 皆川泰代（1994）「母語干渉された閉鎖音の無声時間・VOT について-七カ国語各母語話者の発話資料より」『平成 6 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』 pp. 100–104
- 【81】 関光準（1987）「韓国人の日本語の促音の知覚について」『日本語教育』62 号 日本語教育学会 pp. 179–193
- 【82】 村木正武・中岡典子（1990）「撥音と促音—英語・中国語話者の発音—」『講座日本語と日本語教育 3 日本語の音声・音韻（下）』明治書院 pp. 139–177
- 【83】 渡部真一郎・平藤暢夫（1985）「二音節語における無声破裂音と促音の判断境界と先行母音の長さの関係」『音声言語』 pp. 1–8

【英語の文献】

- 【84】 Abercrombie, D. (1964) “Syllable quantity and enclitics in English”, *In Honour of Daniel Jones*, (Abercrombie, D., Fry, D. F., McCarthy, P. A. D., Scott, N. C. & Trim, J. M. L., eds.), London: Longmans.
- 【85】 Abramson, A. S. (1977) “Laryngeal timing in consonant distinctions”, *Phonetica*, 34, pp. 295–303.
- 【86】 Allen, G. D. (1973) “Segmental timing control in speech production”, *Journal of Phonetics*, 1, pp. 219–237.
- 【87】 Allen, G. D. (1975) “Speech rhythm: its relation to performance universals and

- articulatory timing”, *Journal of Phonetics*, 3(2), pp. 75–86.
- 【88】 Allen, J. & Miller, J. (1999) “Effect of syllable-initial voicing and speaking rate on the temporal characteristics of monosyllabic words”, *Journal of the Acoustical Society of America*, 106(4), pp. 2031–2039.
- 【89】 Beckman, M. (1982) “Segment duration and the 'Mora' in Japanese”, *Phonetica*, 39, pp. 113–135.
- 【90】 Beckman, M. & Shoji, A. (1984) “Spectral and perceptual evidence for CV coarticulation in devoiced /si/ and /syu/ in Japanese” *Phonetica*, 41, pp. 61–71.
- 【91】 Bloch, B. (1950) “Studies in colloquial Japanese IV Phonemics”, *Language*, 26, pp. 86–125.
- 【92】 Borden, G. J., Harris, K. S. & Raphael, L. J. (2002) *Speech Science Primer—Physiology, Acoustics, and Perception of Speech* (4th ed.) Lipp. incott Williams and Wilkins Inc., USA. (『新ことばの科学入門』(2005) 広瀬肇 (訳) MRC メディカルリサーチセンター)
- 【93】 Campbell, W. N. & Y. Sagisaka (1991) “Moraic and syllable-level effects on speech timing”, 『電信情報通信学会技術研究報告(音声)』 90-464, pp. 35–40.
- 【94】 Crystal, T. H. & House, A. S. (1988) “The duration of American-English stop consonants: an overview”, *Journal of Phonetics* 16, pp. 285–294.
- 【95】 Dauer, R. M. (1983) “Stress-timing and syllable-timing reanalyzed”, *Journal of Phonetics*, 11(1), pp. 51–62.
- 【96】 Dauer, R. M. (1987) “Phonetic and phonological components of language rhythm”, *Proceedings of the XIth ICPHS*, Tallinn, Estonia, vol. 5, pp. 447–450.
- 【97】 Debrock, M. (1977) “An acoustic correlate of the force of articulation”, *Journal of Phonetics*, 5, pp. 61–80.
- 【98】 Els Den Os (1985) “Perception rate of speech rate of Dutch and Italian utterances”, *Phonetica*, 42, pp. 124–134.
- 【99】 Fischer-Jørgensen and Hutter(1981) “Aspirated stop consonants before low vowels, A problems of delimitation, -It’s cases and consequences”

- ARIPUC(Annual Report of the Institute of Phonetics)* ,15, Univ. of Copenhagen , pp. 77–102
- 【100】 Fougeron, C. & Jun, S. (1998) “Rate effect on French intonation: prosodic organization and phonetic realization”, *Journal of Phonetics*, 26, pp. 45–69.
- 【101】 Fujisaki, H., Nakamura, K. & Imoto, T. (1973) “Auditory perception of duration of speech and non speech stimuli” *Annual Bulletin of Research Institute of Logopaedics and Phoniatrics*, 7, pp. 45–64, University of Tokyo.
- (Auditory Analysis and Perception of Speech (1975), G. Fant and M. A. A. Tatham (eds), pp. 197–220, New York: Academic Press に再録)
- 【102】 Ganong W. F. (1980) “Phonetic Categorization in Auditory Word Perception “, *Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance*, 6(1), pp. 110–125.
- 【103】 Gay, T., Ushijima, T., Hirose, H. & Cooper, F. S. (1974) “Effect of speaking rate on labial consonant-vowel articulation”, *Journal of Phonetics*, 2, pp. 47–63.
- 【104】 Gay, T. (1978) “Effect of speaking rate on vowel formant movements” *Journal of the Acoustical Society of America*, 63(1), pp. 223–230.
- 【105】 Gay, T. (1981) “Mechanisms in the Speech Rate” *Phonetica*, 38, pp. 148–158.
- 【106】 Goldman-Eisler, F.(1961) “The significance of changes in the rate of articulation”, *Language and Speech*, 4, pp. 171–174.
- 【107】 Gopal, H. S. (1990) “Effect of speaking rate on the behavior of tense and lax vowel durations”, *Journal of Phonetics*, 18, pp. 497–518.
- 【108】 Grosjean, F. & Lane, H. (1976) “How the listener integrates the components of speaking rate”, *Journal of experimental psychology. Human perception and performance*, 2, pp. 538–543.
- 【109】 Han, M.(1962a) “The Feature of Duration in Japanese” 『音声の研究』音声学協会(編) 興文社, pp. 65–80.
- 【110】 Han, M.(1962b) “Unvoicing of vowels in Japanese” 『音声の研究』音声学協会(編) 興文社, pp. 81–100.

- 【111】 Han, M.(1966) “Acoustic phonetic study on speech tempo” 『音声の研究』 12 音声学協会(編) 興文社, pp. 70–83.
- 【112】 Han, M. (1992) “The timing control of geminate and single stop constants in Japanese: A Challenge for Nonnative Speakers”, *Phonetica*, 49, pp. 102–127.
- 【113】 Han, M. (1994) “Acoustic manifestations of mora timing in Japanese”, *Journal of the Acoustical Society of America*, 96(1), pp. 73–82.
- 【114】 Hankamer, J., Lahiri, A. & Koreman, J. (1989) “Perception consonant length: voiceless stops in Turkish and Bengali”, *Journal of Phonetics*, 17, pp. 283–298.
- 【115】 Hirata, Y. (2004) "Effect of speaking rate on the vowel length distinction in Japanese", *Journal of Phonetics*, 32, pp. 565–589.
- 【116】 Hoequist, C. J. (1983a) “Durational correlates of linguistic rhythm categories”, *Phonetica*, 40, pp. 19–31.
- 【117】 Hoequist, C. J. (1983b) “Syllable duration in stress, syllable, and mora-timed language”, *Phonetica*, 40, pp. 203–237.
- 【118】 Hoequist, C. J. (1983c) “The Perceptual center and rhythm categories”, *Language and speech*, 26 (4), pp. 367–376.
- 【119】 Homma, Y. (1981) “Durational relationship between Japanese stops and vowel”, *Journal of Phonetics*, 9, pp. 273–281.
- 【120】 Kagaya, R. (1974) “A fiberscopic and acoustic study of the Korean stops, affricates and fricatives”, *Journal of Phonetics*, 2, pp. 161–180.
- 【121】 Kessinger, R H & Blumstein, S E (1998) “Effects of speaking rate on voice-onset time and vowel production: some implications for perception studies”, *Journal of Phonetics*, 26, pp. 117–128.
- 【122】 Kim, J. W. (1970) “A theory of aspiration”, *Phonetica*, 21, pp. 107–116.
- 【123】 Klatt D. H. (1975) “Vowel lengthening is syntactically determined in a connected discourse”, *Journal of Phonetics*, 3, pp. 129–140.
- 【124】 Klatt, D. H. (1976) “Linguistic uses of segmental duration in English: Acoustic and perceptual evidence”, *Journal of the Acoustical Society of America*, 59(5), pp.

- 1208–1221.
- 【125】 Klaus J. Kohler (1985) “Perception of lenis and fortis plosives in French - A critical re-evaluation”, *Phonetica*, 42, pp. 116–123.
- 【126】 Kuwabara, H. (1996) “Acoustic properties of phonemes in continuous speech for different speaking rate”, *ICSLP (International Conference on Spoken Language Processing) 96 Proceedings*, Philadelphia, PA, USA, pp. 2435–2438.
- 【127】 Ladefoged, P. (1982[1975]) *A Course in Phonetics* (2nd ed.), New York: Harcourt Brace Jovanovich.
- 【128】 Lahiri, A. & Hankamer, J. (1988) “The timing of geminate consonants”, *Journal of Phonetics*, 16, pp. 327–338.
- 【129】 Laver, J. (1994) *Principles of Phonetics*, Cambridge: Cambridge University Press.
- 【130】 Lehiste, I. & Peterson, G.E. (1961) “Transitions, glides and diphthongs” *Journal of the Acoustical Society of America*, 33, pp. 268–277.
- 【131】 Lehiste, I. (1977) “Isochrony reconsider”, *Journal of Phonetics*, 5(3), pp. 253–263.
- 【132】 Lisker, L. (1957) “Closure duration and the intervocalic voiced-voiceless distinction in English”, *Language*, 33(1), pp. 42–49.
- 【133】 Lisker, L. (1974) “On time and timing in speech”, *Current Trends in Linguistics*, 12, pp. 2387–2318: Mouton.
- 【134】 Lisker, L. (1978) “Rapid vs. Rabid: A catalogue of acoustic feature that may cue the distinction”, Haskins Laboratories (New Haven, CT) Status Report on Speech Research (No. SR-54), pp. 127–132.
- 【135】 Lisker, L. and Abramson, A. (1964) “A cross-language study of voicing in initial stops: Acoustic measurements”, *Word*, 20, pp. 384–422.
- 【136】 Lisker, Leigh (1986) “‘Voicing’ in English: A catalog of acoustic features signaling /b/ versus /p/ in trochees”, *Language and Speech*, 29, pp. 3–11.
- 【137】 Maddieson, I. (1985) “Phonetic cues to syllabication”, *Phonetic Linguistics: essays in honor of Peter Ladefoged*, Victoria A. Fromkieu (ed.), Orlando, Florida:

- Academic Press, INC, pp. 203–221.
- 【138】 McCawley, J. D. (1968) *The Phonological Component of a Grammar of Japanese*: Mouton.
- 【139】 Miller, J. (1981) “Some effects of speaking rate on phonetic perception”, *Phonetica*, 38, pp. 159–180.
- 【140】 Miller, J., Grosjean, F., & Lomanto, C. (1984) “Articulation rate and its variability in spontaneous speech: A reanalysis and some implications”, *Phonetica*, 41, pp. 215–225.
- 【141】 Mitsuya, M. (1976) “Effect of Consonant Voicing on the Preceding Mora in Japanese”, MA thesis California State University, Fresno.
- 【142】 Obrecht, D. H. (1965) “Three experiment in the perception of geminate consonants in Arabic”, *Language and Speech*, 8, pp. 31–41.
- 【143】 Ohala, J. J. (1976) “Comments on ‘Temporal interactions whinin a phrase and sentence context’”, *Journal of the Acoustical Society of America*, 59(4), pp. 990–992.
- 【144】 Otake, T. (1988) “A temporal compensation effect in Arabic and Japanese”, 『音声学会会報』第 189 号 日本音声学会, pp. 19–24.
- 【145】 Otake, T. (1989) “A cross linguistic contrast compensation effect”, 『音声学会会報』第 189 号 日本音声学会, pp. 14–19.
- 【146】 Pickeet, J. M. & Decker, L. R. (1960) “Time Factors in perception of a double consonant”, *Language and Speech*, 3, pp. 11–17.
- 【147】 Pike, K. L. (1947) *Phonemics: A Technique for reducing Language to Writing*, Ann Arbor: University of Michigan Press.
- 【148】 Port, R. F., J. Dalby & M. O'Dell. (1987) “Evidence for mora timing in Japanese”, *Journal of the Acoustical Society of America*, 81(5), pp. 1574–1585.
- 【149】 Port, R. F. (1979a) “The influence of tempo on stop closure duration as a cue for voicing and place”, *Journal of Phonetics*, 7, pp. 45–56.
- 【150】 Port, R. F. (1979b) “Relation between voice-onset time and vowel duration”,

- Journal of the Acoustical Society of America*, 66(3), pp. 654–662.
- 【151】 Port, R. F. (1981) “Linguistic time factors in combination”, *Journal of the Acoustical Society of America*, 69(1), pp. 262–274.
- 【152】 Port, R. F. (1982) “Timing regulaties in Japanese”, *Journal of the Acoustical Society of America*, 72, S 111.
- 【153】 Port, R. F., & J. Dalby (1982) “Consonant/ vowel ratio as a cue for voicing in English”, *Perception & Psychophysics*, 32(2), pp. 141–152.
- 【154】 Port, R. F., Al-Ani, S. & Maeda, S. (1980) “Temporal compensation and universal phonetics”, *Phonetica*, 37, pp. 235–252.
- 【155】 Poser, W. J. (1990) “Evidence for foot structure in Japanese”, *Language*, 66, pp. 78–105.
- 【156】 Repp, B. H. (1978) “Perceptual integration and differentiation of spectral cues for intervovalic stop consonants”, *Perception & Psychophysics*, 24(5), pp. 471–485.
- 【157】 Repp, B. H. (1983) “Bidirectional contrast effects in the perception of VC-CV sequences”, *Perception & Psychophysics*, 33(2), pp. 147–155.
- 【158】 Sato, Y. (1998) *The Phonetic Reality of the Mora in Japanese: A Cross-Linguistic Study on Timing in Japanese, English, and Korean*, Ph. D. dissetion, Univ. of Hawaii.
- 【159】 Sawashima, M. (1971) “Devoicing of vowels” *Annu. Bull. Res. Inst. Logopedics Phoniatics*, 5, University of Tokyo, pp. 7–13.
- 【160】 Stevens, K.N., Keyser, S. J. and Kawasaki, H. (1986) “Toward a phonetic and phonological investigation of redundant features”, In J. Perkell and D.H.Klatt (Eds.) *Symposium on Invariance and Variability of Speech Processes*, Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum, Ch. 20, pp. 426–463.
- 【161】 Stevens, K.N. and Keyser, J.K. (1989) “Primary features and their enhancement in conso-nants” *Language*, 65, pp. 81–106.
- 【162】 Street, R. & Brady, R. (1982) “Speech rate acceptance ranges as a funtion of

- evaluative domain, listener speech rate, and communication context”
Communication Monographs, 49, pp. 290–308.
- 【163】 Takeda, K., Sagisaka, Y. & Kuwabara, H. (1989) “On Sentence-level factors governing segmental duration in Japanese”, *Journal of the Acoustical Society of America*, 86, pp. 2081–2087.
- 【164】 Van den Broecke, M. P. R. & van Heuven, V. J. (1983) “Effect and artifact in the auditory discrimination of rise and decay time: Speech and nonspeech”, *Perception & Psychophysics*, 33(4), pp. 305–313.
- 【165】 Warner, N. & Arai, T. (2001a) “Japanese mora-timing: A review”, *Phonetica*, 58, pp. 1–25.
- 【166】 Warner, N. & Arai, T. (2001b) “The role of the mora in the timing of spontaneous Japanese speech”, *Journal of the Acoustical Society of America*, 109(3), pp. 1144–1156.
- 【167】 Wieneke, G., Janssen, P. and Belderbos, H. (1987) “The influence of speaking rate on the duration of jaw movements”, *Journal of Phonetics*, 15, pp. 111–126.
- 【168】 Wright, T. W. (1974) “Temporal interactions within a phrase and sentence context”, *Journal of the Acoustical Society of America*, 56(4), pp. 1258–1265.